



NO.885

2012.9.23

発行所

日本共産党  
網走市委員会  
網走市北八三三  
四三三-四四五八  
F 四三三-四四五七



# オスプレイの配備撤回を求める 意見書が委員会採択!

9月13日に開かれた市議会総務・文教委員会では、補正予算審査後、請願・意見書について審査が行われました。

その中で、日本共産党議員団が要請していた「米海兵隊の垂直離着陸輸送機オスプレイの配備撤回を求める」意見書(案)が審査され、提出者の飯田議員が意見書の概略を説明しました。

## 意見書の内容は以下の通りです

沖縄や岩国など各地で反対の声が強まる中、日米両政府は墜落事故が相次ぐ米海兵隊の垂直離着陸輸送機オスプレイの沖縄配備を決め、山口県の岩国基地に先行搬入しました。オスプレイは10月には沖縄県普天間基地に配備、本格運用される予定です。沖縄県では県議会や県内41市町村の議会と首長全てが配備に反対しています。

## 全委員の意見が一致!

山口県や岩国市議会と首長が搬入に反対し、米軍基地がある14都道府県からなる渉外知事会も地元の意思を尊重するよう政府に申し入れている。オスプレイの配備が普天間基地がある沖縄県だけでなく、低空飛行訓練が予定され日本列島の北から南まで墜落の危険をもたらすことは明らかです。オスプレイは開発段階から墜落事故を繰り返し、実戦配備が始まった2005年以降も2010年にアフガンスタンで、今年に入って4月にモロッコで、6月に米国南部の民間飛行場に緊急着陸

この意見書は21日の本会議に上程され採択の予定、採択後に防衛省をはじめ関係行政庁に送付される予定です。

# 松浦奮戦モロ

フロリダでのオスプレイ墜落事故は、人為的ミスが原因ではなく、空軍の規定通り飛行したのに墜落したそうです。

空軍の公式指針は ①オスプレイ2機が編隊飛行する場合、操縦席間の距離を最低75メートルに保つと規定。

②1番機の後方乱気流は114メートルまでしか示していません。ところが事故報告は「事故機の搭乗員は(空軍公式指針が定める)75メートルと114メートルという距離の2〜3倍は保っていたのに、1号機の後方乱気流に遭遇した。

アメリカの元主任分析官のリボロ氏は、この一節に注目し「これは、事故機は規定に沿って適法的に飛んでいたと事故調査報告が認めているということだ。

適法的なら人為的ミスが原因ではなかったということになる」と述べています。

このようにアメリカの専門家が指摘しているように、墜落する危険度が高いオスプレイは、ハワイでは配備させませんでした。日米安保があるうと配備してはなりません。

# いっせ東奔西走

14日、政府は「エネルギー・環境戦略」を決定した。国が行ったアンケートでも8割以上の国民多数がゼロを望んでいる原発に「2030年代までゼロの期限を設ける」としました。30年代とは39年まではいる。しかも、アメリカにはあくまで「努力目標」というから、原発ゼロは30年近く先送りも確約もない。

一方で、核燃料サイクル政策で、「従来どうり再処理事業に取り組み」とした。再処理自体危険極まりないのに、その処理によって新たな核燃料をつくりだす。一方で、「原発ゼロ」を口にしなが、他方で、新たな核燃料をつくる再処理を続けるという、まったく矛盾した姿勢と言わざるを得ない。

その舌の根も乾かない翌日に、枝野経済産業大臣は、福島第一原発の事故をうけて建設中断していた青森の大間原発をはじめ東通原発、島根原発の建設継続を容認をした。

これでは新設原発は「30年原則」を適用すると30年代まで稼働することになり、「30年代原発ゼロ」は全くのごまかしであったことを露呈しました。ひどい政府ではないか。

# 流水

紙智子「国会かけある記」  
自然エネルギー実用化に応援を  
日本共産党参議院議員  
紙 智子

富良野市の東郷ダムの調査とあわせ、小水力発電施設に取り組んでいるアイキ産業を、はたやま和也比例候補、真下紀子道議と六区のおぎう和敏候補とともにたすねました。

川の流れを利用して電力を作り出す小水力発電を、どのようにして形にしているか、興味しんしんで、実用化を目指して取り組んでいる市村日出綺社長にお話を聞きました。「以前からやりたいと思っていたのです」と、小水力発電に旺盛に取り組んでいる他県へも調査に行き、さまざまな知恵を蓄積、研究してきた事を話してくださいました。

川の流れを利用して、小規模でも十分電力が取れるもの、ただし、川や周りの環境は変えずにできる範囲でと、考えてきたそうです。雨が降って川の水量が増えた場合は、それに合わせて水車が持ち上がるように、また、長い間の課題だった枯れ葉やゴミを取り除くための自動装置など、技術を駆使して取り組んできたことを生き生きと説明してくださいました。

これを実行するために、国や行政に望むことは何ですか?と聞くと、一つは水利権を巡る条件緩和、もう一つは、予算だ。特に実証実験の段階で、支援があれば、ありがたいとのことでした。身近な自然に依拠したエネルギーを生み出し、実用化できることは、いまみんなの願いです。無駄なダムにつき込んできた膨大な費用を考えるなら、こうしたとりくみこそ応援したいと思いた。